

二部地区活性化だより

野上川の風

編集発行

二部地区活性化推進機構

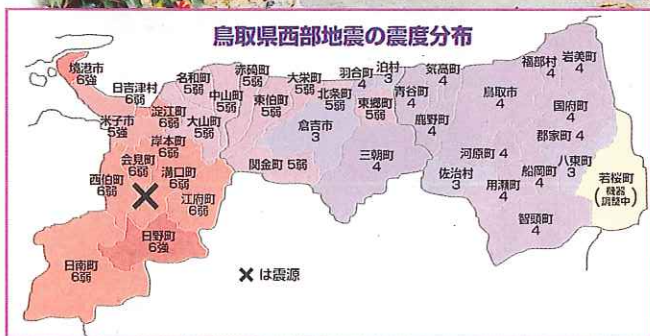
溝口町 二部公民館

日野総合事務所農林局

日野農業改良普及所



●被害家屋の撤去作業 福岡地内



あれから 一年...

山が鳴り 大地が震う

突然襲う 恐怖のひとつとき

人は己を失い 這いつくばんだ

気がつけば

壁が 瓦が 石垣が

そして 道も田ん圃も 墓石も

ここに 未曾有の大災害を知る

あれから 一年

皆んなが 失意から立ち直り

復旧の汗を流した

それを支えて頂いた 行政と共済

温かいボランティアの力も借りた

ここに漸く

ふる里の再生が 見えてきた

好まざる この体験を

在ってならない 万一の

備えに いかしたい

平成十二年十月六日 午後一時三十分

マグニチュード七・三 震度六の鳥取

県西部大地震が襲った。

震源に直近の二部地区の被害は甚大だ

ったが、不幸中の幸いは、人身被害と

火災発生が無かったこと。

生きいき安心して暮らせる
地域づくりをめざして

●副会長 安 藤 幹 子

この度の委員総会において、役員改選が行われ浅学非才を省みず引き続き再選を受けることになりました。微力ながら老骨に鞭打って任期を勤めたいと思いますので、力強い皆様のお力添えとご支援をよろしくお願い申し上げます。

二十一世紀を迎えた世界、日本の社会情勢は、厳しい以上の何がいとおきるか皆目見当がつかぬ激動の時代です。そんな危機感と、不安の中で、せめて、私たちのこの地域で、お互いに心を通わせながら、みんなが生きいき安心して暮らせる地域づくりをめざして、身近かなところで出来ることから何かを始めようではありませんか。

昨年の鳥取西部大地震によって私たちの地域は甚大な被害を被り大変な一年間でした。今後は復興から更なる活力を生み出す地域おこしが必要となっています。自分たちの地域の実態をよく把握しながら、みんながよく話し合い、地域に見合った方向付けを探しながら、人と恵まれた自然が共に協奏できれば。

どうか、理想に一步でも近づけるように皆様方のご協力を切にお願い申し上げます。

設立三年ことしの事業計画

設立三年目を迎え、本格的な活動を展開したいと考えています。

昨年度は地震災害のため計画の一部が中止又は変更されたこともあり、前年度計画の再度挑戦も含め、次の通り委員総会で承認されました。

平成十三年度事業計画

●総務部会

- 1 会報「野上川の風」の発行
(第四号の発行)
- 2 委員視察研修の実施
(場所未定)
- 3 むらづくり講演会の開催
(一般も対象)

●産業振興部会

- 1 赤花ソバ「高嶺ルビー」の二年目試作と採種圃設置
- 2 山菜及び山野草の実証展示
(見本園)
- 3 熟年就農者の組織化及び技術研修

●住みよい環境部会

- 1 上下水道整備事業の推進
- 2 分散集落での合併処理浄化槽の普及

●趣味と生きがい部会

- 1 たたらまつり、多々楽学園の開催に全面協力
- 2 園芸講習会の開催
- 3 各同好会の連携強化

●健康スポーツ部会

- 1 町民運動会に協力(全町大会)
- 2 旧二部中、地区一周駅伝コースの整備
- 3 健康講演会と二部地区ウォーキングの実施
- 4 男の料理講習会の開催

●福祉ボランティア部会

- 1 高齢者、障害者への支援活動
- 2 青少年健全育成及び小学校行事への協力
(学童農園、鳥の巣箱づくり、3世代キャンプ、星空映画会ほか)
- 3 道路、河川周辺の一斉清掃活動(P.T.A、老人会と連携)

きれいな川と美しい道を

住民アンケートによれば、懐かし
い子どもの頃の遊びは、川あそび、
魚とりが圧倒的多数を占めました。
いまの水泳はプールと決まっていま



駅伝コース草刈で一服

すが、昔はもっぱら川が遊び場でした。危険防止や衛生面からのことと理解はできますが、昔の川に比べ川が汚染されてきたことも敬遠の理由です。

また県道町道の路側帯は、これまた空カンや空ビンのポイ捨てで、目を覆うばかりの汚れです。

この実態を踏まえ、わが活性化機構では二部地区の皆さんのご理解ご協力を仰ぎ、川と道のクリーン作戦を展開したいと考えています。年明けにはP.T.A、老人会等にお呼びかけをして具体化に取組む予定です。

(環境 ボランティア部会)

旧二部中学校駅伝コースの 探検をおえて

●健康スポーツ部会長 大 森 英 一

探検日程最後の昼食で、参加された皆さんの口から一様に「楽しかった!」との感想を聞いたとき、それまでの努力が報われた思いでした。

お愛想の感想と知りつつも、少しだけ調子に乗り、参加できなかった皆さんに、探検の様子を紹介したいと思っています。

いつの頃からか健康スポーツ部会で語られ始めた、「旧二部中学校駅伝コース」探検は、あの憎らしい大地震のりこえ、二年越しの実施となりました。

昨年のコース下見に始まり、今年六月のコース整備の後、四十一名もの探検ができたのは、二部地区活性化推進機構がもっている力、つまり、故郷への愛着心によるものだと思いためて、そのパワーに感心させられました。

昭和二十二年から中学校の年中行事としてじまった駅伝は、昭和三十九年までの一八年間続けられました。

今回その足跡をたどり、間地・李田・山崎・谷中・郷原間を散策いたしました。

第二中継点の間地では、ゆるやかな

山道がまわっていました。

「この程度ならたいしたことないな」と思いきや、いきなり二五度の坂。「わお!」しばらくにぎやかでしたが、やがて静かになりました。そうです、息が切れて話ができないのです。

そうこうするうち下りにはいり、今回整備した「かずら崖」と「活性丸太橋」(勝手に名前をつけました)を通り、第三中継点の李田に到着しました。皆さんとても元気で、休憩なしで第四中継点の谷中に向かいました。途中、安達前館長から「富田街道」、「七人神」等、二部地区にまつわる話があり、皆さん真剣に聞き入っていました。

さあ次は第二の難所、「細声峠」越えです。

谷中の生活道から山道に入るやいなや、三〇度(ほんとかな?でもほんとにきつい)の坂道です。

先ほど経験したばかりだったのでこのほか静かでしたが、さすがに表情にきびしいものがありました。

でも、峠の絶景が目にはいるといっぺんに疲れが吹き飛びました。それもそのはず、参加者の多くが、実際にコ

ースを走った男性や、同世代の女性の為、思い出にひたりながら足取りも軽かったようです。郷原に着いても、すっきりした表情が、印象的でした。

今回の探検をおして気づいたのは二部に住んでいながら知らなかったことが多いということでした。

それは歴史であったり、自然であったりと、知ろうとしなければ気がつかないりっぱな財産でした。

来年もぜひ第二回探検隊を募集したいものです。



駅伝コースのウォーキング

二部中学校駅伝競争

●前公民館長 安 達 允

終戦を契機にわが国の学制は大きく変わり、二部村でも昭和二十二年(一九四七)から各市町村と同様に新制中学校が設置された。校舎の位置は現在の二部小学校の場所だった。この年から学校の年中行事として、村内一周の駅伝競争が始まった。コースは(学校・間地) (間地・李田・山崎) (山崎・谷中・郷原) (郷原・福岡分校) (福岡分校・下代・焼杉) (焼杉・上の名・藤屋) (藤屋・船越・福吉・三部一区・柳橋) (柳橋・三部二区・学校) の八区間で福岡 畑池 二部 野上 三部の五チームであったが複数参加のチームもあり、教員チームの参加もあった。急な山道も何カ所もあり、這って上ったという難所もあった。

はじめは年一回であったが後には春秋二回開催され、二部中学校の名物行事として定着し、中学校実質統合前年の昭和三十九年(一九六四)まで一八年間続けられた。当時の中学生たちは五〇・六〇歳代になっているが、この行事を懐かしむ人が多い。現在駅伝は流行だが、五〇年以上も昔この独特な行事を始められたことに敬意を捧げた。

住みよい生活環境と

水環境の整備について

溝口町生活環境課

今日、生活様式の変化によって、家庭からの生活排水が年々増え続けたことにより、川や海を汚すなど、生活環境の悪化が問題になっています。

また、住民のみならずからもトイレの水洗化や集落内の環境整備を望む声が年々高まっています。

このような状況の中、溝口町では二部地区の下水道を、農業集落排水事業と特定地域生活排水処理事業で整備して、住みよい生活環境をめざします。

農業集落排水事業

農村部の生活排水やトイレの水を終末処理場まで流して、微生物の力できれいにして川に流す事業です。通常「農集」とか「集排」と呼ばれます。

二部地区では、三部・二部・船福・畑池（谷中を除く）・間地（上間地を除く）がこの事業の対象となります。

平成十三年度から事業開始となり平成十六年度に完成をめざします。

特定地域生活排水処理事業

（合併処理浄化槽）

生活排水・トイレの水をそれぞれの自宅の敷地内に設置した浄化槽で処理して、きれいな水を川に流すものです。

合併浄化槽の維持管理（法定検査・薬品補充・汚泥引き等）については、個人が行う場合と自治体が行う場合があります。溝口町では、町が維持管理を行うこととしております。

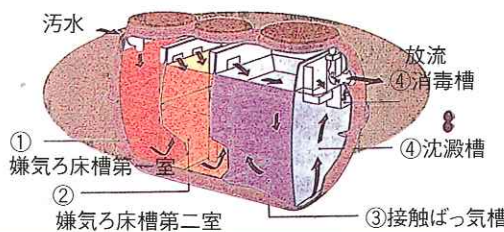
二部地区では、福居・焼杉・福岡・谷中・上間地・熊谷がこの事業の対象となります。

平成二十一年度までを目途に整備を推進していきます。

川、海を汚している原因は、概ね六〇％程度が家庭排水によるものだといわれています。生活様式の変化により、多くの水が使われるようになり、また、使われた水は汚れたままで川に流されてきました。

自然は決して人間だけのものではありません。環境に対する意識を高めて、美しい自然を未来の子どもたちに残さなくてはなりません。

小規模合併処理浄化槽のしくみ



活動日誌メモ

平成十三年

(月日) (内容)

平成十二年

- 一〇、六 鳥取西部大地震発生
- 一〇、二〇 三役会（災害復旧ボランティア活動について）
- 一〇、二四 役員会、ボランティア部会合同会議（〃）
- 一〇、二九 一 ボランティア活動
- 一一、一〇 委員研修視察（高梁市）
- 一一、二七 赤花ソバ展示圃成績検討会、そば打ち講習会と試食会
- 平成十三年
- 一、一八 辻智堂展覧学（鳥取博物館）
- 一、二六 地域づくり団体全国研修交流会高知大会
- 二、五 たたらまつり実行委員会
- 二、一七 一 たたらまつり（山根溪石遺作展併催）
- 三、二八 山菜視察研修（日南試験地）役員会
- 四、五 二部小学校鳥の巣箱づくり
- 四、一三 身障者花回廊見学
- 五、二二 二部小学校学童農園田植え総務部会
- 五、二五 鳥取県じげおこし団体連絡協議会総会（倉吉市）
- 五、二六 健康スポーツ部会
- 五、三〇 環境、福祉、趣味三部会
- 六、一 産業部会
- 六、二 委員総会
- 六、一七 旧二部中駅伝コース草刈
- 七、一四 一 じげおこし大学（智頭町）

七、二七 一 三世代交流キャンプ（榎水原）

七、三〇 赤花ソバ栽培講習会

八、六 日野総合事務所出前相談会（二部公民館）

九、一六 本会役員会

九、一九 赤ソバ巡回指導

九、二九 一 じげおこし大学（鹿野町）

一〇、十三 一 じげおこし交流会（日南町ゆきんこ村）

一〇、二五 総務委員会

一一、六 たたらまつり実行委員会

一一、八 環境ボランティア合同部会（県土整備局と話し合い）

一一、一〇 合併処理浄化槽事業研修（環境部会・部落代表委員会）

一一、一四 旧二部中駅伝コースウォーキング

一一、二二 一 たたらまつり特別委員会

一二、七 たたらまつり実行委員会

あどがき

鳥取西部地震で大きな被害を受けてから一年が経過しました。

被害の復興は着実に進み、ようやく落ち着きを取り戻しつつありますが、まだ当時の被害がそのまま残されているものもあります。

一日も早く元の姿に復興されることを心から願うものです。

また、この度の地震により特に山間部では過疎に拍車がかかる心配が見られこれに歯止めをかけることも今後の重要な課題であり、そのためにも地域の活性化が一段と望まれるところです。